

2011年度の鉄鋼需要の動向について

平成 22 年 12 月 20 日

(社) 日本鉄鋼連盟

2011 年度の日本経済は成長のペースが減速

- 2010 年度の日本経済は、アジア向け輸出の早期回復に導かれる形で回復軌道を辿り、加えて政府の景気対策による内需の回復も景気を下支えし、設備投資・住宅投資が持ち直す一方、エコカー補助金等の政策効果により自動車をはじめとする製造業においても堅調な推移が見られた。しかし、最近の円高による輸出の増勢鈍化ならびに景気対策の終了による消費の反動減を受けて、足下では足踏み状態にある。
- 2011 年度をみると、エコポイントを含めた各種対策の終了により消費、生産については反動減も予想されるが、住宅投資等の緩やかな回復と、中国をはじめとする新興国における高い成長に伴う輸出の堅調な推移が見込まれ、成長のペースは減速するものの、GDP 成長率は +1.2% 前後と見込んでいる。

2011 年度の粗鋼生産は、10 年度並の 1.1 億トン程度

- 粗鋼生産は、リーマンショックによる鉄鋼需要の落ち込みを受けて 2 年連続で減少したが、2010 年度は好調なアジア向け輸出と製造業を中心とした内需の緩やかな回復に支えられ、1.1 億トン近くまで回復するものと見込まれる。
- 2011 年度の国内鉄鋼需要は、製造業、特に自動車・家電等の国内出荷向けの需要が落ち込むと予想される一方で、住宅・設備投資関連の需要は回復軌道を辿り、全体では微増横ばい程度が予想される。
- 全鉄鋼輸出は、東アジアでの新規設備稼働や円高の影響が下ぶれリスクとして懸念されるが、アジア新興国を中心に引き続き鉄鋼需要が伸びていることから、4 千万トン程度の水準を維持すると想定される。
- この結果、円高等による輸出入の動向や在庫水準の変動による粗鋼生産への影響など不透明な要因もあるが、11 年度の粗鋼生産は前年度水準を維持する見通し。

以 上

